

令和元年度 地域コミュニティ活性化PJ（生涯学習推進講座）開催要項

- 1 目 的 住民のライフスタイルや時代の変化により、地域コミュニティが希薄化している中、核となる『公民館活動』において運営サイドのスキルアップを図り、地域ニーズに応えられる組織へとステップアップすることで、地区ごとの公民館の将来像を明確にし、地域コミュニティの活性化を目指す。
- 2 主 催 鷹栖町教育委員会、北海道立生涯学習推進センター
- 3 会 場 鷹栖地区住民センター
- 4 期 日 令和元年11月 ～ 令和2年1月 計3回
- 5 参加対象 各地区公民館生涯学習主事、各地区公民館運営委員、各地区住民センター指定管理団体職員、町及び町教育委員会職員
- 6 募集人員 各回 30～35 名程度
- 7 日程及び研修内容

【第1回 地域コミュニティ活性化PJ】テーマ「今、公民館に求められていることとは」

17:30 18:00			19:00		20:00
1回目 11月12日 (火)	受付	開 講 式	基調講義 「今、公民館に求められている役割について(仮)」 北海学園大学 教授 内田 和浩 氏		ワークショップ (生涯学習推進センター職員) ○各地区公民館の現状、課題等の 情報共有、意見交換 ○講演を聞いての意見交換 等

【第2回 地域コミュニティ活性化PJ】テーマ「新たな時代の地域運営の手法を知る」

17:30 18:00			19:00	19:30	20:00
2回目 12月19日 (木)	受付	先進事例 「新たな時代の地域運営の手法について(仮)」 きらりよしじまネットワーク 事務局長 高橋 由和 氏	ワークショップ (生涯学習推進センター職員) ○講演を聞いての意見交換 等		

【第3回 地域コミュニティ活性化PJ】テーマ「地区ごとの公民館活動のあり方を考える」

17:30 18:00			19:00	19:30	20:00
3回目 1月 (開催日未定)	受付	ワークショップ 「地区ごとの公民館活動の未来を考える(仮)」 (生涯学習推進センター職員)	発表 ○各地区の将来像を共有		閉 講 式

【様式 6】

令和元年度 第1回地域コミュニティ活性化プロジェクト（生涯学習推進講座） 報告書

1 講座概要

日 時	令和元年 11 月 12 日(火) 18:00～20:00		
会 場	鷹栖地区住民センター		
運 営	鷹栖町教育委員会教育課生涯学習係主任 山本 裕太		
	道立生涯学習推進センター	主査	久末 考勇
講 師	北海学園大学	教授	内田 和浩 氏
参加人数	35 名		



基調講義の様子



講師の内田教授



議論の様子①



議論の様子②

2 プログラム概要

- 開 会
- 説 明「事業開催の趣旨説明」
説明者 鷹栖町教育委員会教育課生涯学習係主任 山本 裕太
- 基調講義「今、公民館に求められていることとは」
講 師 北海学園大学教授 内田 和浩 氏
- ワークショップ「地区公民館の現状と課題」
ファシリテーター 北海道立生涯学習推進センター 久末 考勇
- 講師助言

3 講座内容と参加者の様子

公民館活動の役割を再認識し、時代の変化に応じた新たな展開の必要性を、運営主体である各地区運営委員会、生涯学習主事、また施設管理を担う指定管理団体が一堂に会した中で学び、運営サイドのスキルアップを目的に本講座を実施した。

内田教授による講義では、公民館活動の原点を振り返るとともに、鷹栖町の現状をふまえ、他自治体の事例も参考にしながら、今の時代の公民館がどのような役割を果たすべきなのかを学ぶことができた。

ワークショップでは、5地区の公民館関係者が初めて一堂に会する機会だったこともあり、それぞれのグループで活発な議論が展開され、時間が足りないほどであった。参加者にとって他地区との意見交流が良い刺激となり、次回への機運が高まったように思われる。

4 アンケートの結果

- ・全項目において、事後のほうが高い数値となった。
- ・第1回の主たる目的である、項目1～3について事後のほうが高い数値となり、一定の理解促進、興味・関心を高められた結果となった。
- ・第2回のテーマでは、項目4～5をメインとしており、数値の高まりを期待する。
- ・項目6については、改めて公民館活動の原点を振り返るなかで、公民館活動の重要性や公民館活動が地域にとって大切なことであるとの認識が高まったと同時に現状に対する危機感も高まったと推測する。

項目		事前	事後
1	公民館活動の目的・役割	3.0	3.4
2	地域コミュニティ活性化への関心	3.2	3.3
3	地域住民が主体的に活動する必要性	3.2	3.5
4	地区住民センターへの指定管理制度導入の目的	2.7	2.8
5	公民館運営委員会と指定管理団体との連携の必要性	3.0	3.3
6	公民館活動を軸とした地域コミュニティの希薄化への危機感	3.0	3.5

数値は平均値（小数第2位を四捨五入）

【様式 6】

令和元年度 第2回地域コミュニティ活性化プロジェクト（生涯学習推進講座） 報告書

1 講座概要

日 時	令和元年 12 月 19 日 (木) 18:00～20:00
会 場	鷹栖地区住民センター
運 営	鷹栖町教育委員会教育課生涯学習係 主任 山本 裕太 道立生涯学習推進センター 主査 久末 考勇
講 師	NPO法人きらりよしじまネットワーク 事務局長 高橋 由和 氏
参加人数	31 名



基調講義の様子

2 プログラム概要

○開 会

○基調講義「公民館は地域運営を担う小さな拠点～公民館で地域は甦る～」

講 師 NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長 高橋 由和 氏

○質疑応答

3 講座内容と参加者の様子

第2回講座では「先進事例から、新たな地域運営組織の取組実態や手法を知る・学ぶ」をテーマに、全国的にも先進的に取り組んでいる、NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長の高橋由和氏を講師に招き、“学ぶ”ことに重点をおき開催した。鷹栖町においては、平成20年度から町内5地区の公民館を『住民センター』と名称変更し、指定管理者制度による管理・運営を行っている。制度を導入して10年以上が経過する中、センターを拠点する公民館活動との連携、地域住民のニーズへの柔軟な対応など、制度導入のメリットを生かし切れていないという課題が見えてきた。

高橋氏による講義では、地域運営組織の運営方法を知ることにとどまらず、公民館活動を軸とした人材育成、地域で稼ぐこと、CSとの関わりなど、持続可能な地域づくりの実践に向けて具体的に学ぶことができた。前回講座で公民館活動の役割を再認識したうえで学んだことで、参加者にとってもより深い学びとなり、地域の将来に向けた関心は高まったと思われる。

4 アンケートの結果

- ・全項目において、事後のほうが高い数値となった。
- ・第2回の主たる目的である、項目4～5についてわずがではるが事後のほうが高い数値となり、一定の理解促進、興味・関心を高められた結果となった。
- ・きらりよしじまが実施している他分野の具体的な事例が多く紹介され、すべてが地域住民主体で取り組まれているものであったため、項目1～3についても数値が高まったと思われる。

項目		事前	事後
1	公民館活動の目的・役割	2.7	3.2
2	地域コミュニティ活性化への関心	3.0	3.2
3	地域住民が主体的に活動する必要性	3.1	3.3
4	地区住民センターへの指定管理制度導入の目的	2.6	2.8
5	公民館運営委員会と指定管理団体との連携の必要性	2.9	3.0
6	公民館活動を軸とした地域コミュニティの希薄化への危機感	3.1	3.3

数値は平均値（小数第2位を四捨五入）

【様式 6】

令和元年度 第3回地域コミュニティ活性化プロジェクト（生涯学習推進講座） 報告書

1 講座概要

日 時	令和2年1月29日(水) 18:00～20:00
会 場	鷹栖地区住民センター
運 営	鷹栖町教育委員会教育課生涯学習係主任 山本 裕太 道立生涯学習推進センター 主査 久末 考勇
参加人数	32名



ワーク I の様子①

2 プログラム概要

- 開 会
- グループワーク I 「学びの共有と意見交換」
- グループワーク II 「地区の将来像を描く」
グループワークファシリテーター
北海道立生涯学習推進センター 久末 考勇
- 地区将来像の発表
- 閉 会



ワーク I の様子②

3 講座内容と参加者の様子

第3回講座は、これまでの2回で学んだことを振り返り、これからの公民館活動にどう生かせるか、自分たちの地区の公民館は将来どうあるべきかを考えていく場とした。

前半は、ごちゃまぜのメンバー構成とし、第1回で十分ではなかった地区間での交流、他地区の活動を知ることも含め、学びの共有・意見交換を行った。町内の地区公民館という同じ立場で日頃から活動しているものの、一堂に会する機会は設けられておらず、他地区でどのような活動をしているのか、地区ごとにどのような特色があるのかを知ることは、お互いの刺激にもつながったようである。

後半は、地区ごとのグループへと編成を変え、地区ごとの将来像を描くワークを行った。第1回講座で学んだ公民館の原点・役割、第2回講座で学んだ地域運営の新たな手法、他地区との交流で学んだことをふまえ、10年後の地区公民館の姿を描いた。各地区で出された主たる内容は次のとおり。

【鷹栖地区】

- ☆交流の場、ともに集う場、広がり場であり、心の拠り所となる公民館
- ☆愛称のとおり誰もが“ふらっと”立ち寄れる場

【北野地区】

- ☆子どもたちを中心に、気軽に集まることができる場
- ☆公民館活動の結果報告を充実し、情報共有による興味・関心の向上

【北斗地区】

- ☆地域の人にとって“自分の居場所がある”と思える公民館づくり
- ☆現役世代へのアプローチを増やし、多世代交流による活性化

【中央・北成地区】

- ☆地域の困りごとを解決できる場としての確立
 - ☆地域を把握し、中心となっていくプレーヤー（人材）の育成
- 各地区で協議されたものを、今後具現化していくためにも、行政がしっかりとバックアップし、地域が主役となった公民館活動のさらなる発展に向けて取り組んでいく意識の向上につながったと思われる。



ワーク II の様子①



ワーク II の様子②



地区将来像の発表